

令和7年度 墨田区立業平小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 伊藤 康次

学校教育目標	◎進んで学ぶ子【重点】 ○やさしい子 ○元気な子
目指す学校像	開校110周年 「自分愛」「他者愛」「学校愛」「地域愛」を育む業平小新教育プラン（第1年次）
目指す児童像	<p>◆「自分愛」 ・自分を価値ある存在として肯定できる子 ・粘り強く自己の可能性やよさを発揮できる子 ・困難に向き合い、困難を乗り越えるしなやかな強さをもつ子</p> <p>◆「他者愛」 ・他者を自分と同様に価値ある存在として受け入れることができる子 ・他者と積極的に関わり問題を協働的に解決できる子 ・他者と折り合いをつけ、「納得解」を導き出せる子</p> <p>◆「学校愛」 ・所属意識をもち、学校生活に進んで参画できる子 ・集団の一員として、学校を創る当事者としての自覚をもてる子 ・業平小の児童としての誇りや自信をもてる子</p> <p>◆「地域愛」 ・多様な地域の人々と進んで関わろうとする子 ・地域に関心をもち、地域成員としての自覚をもてる子 ・地域から学び、よりよい地域を創る担い手としての意識をもてる子</p>
目指す教師像	<p>教職員が誇りをもって働くことができる学校とするために…</p> <p>○働きがいがある職場 ○互いに敬意と立場の尊重、感謝の心</p> <p>○教育への情熱・使命感、高め合い ○自律と規律 ○自己のライフスタイルの充実</p>

○令和7年度 学校経営計画における重点内容

【柱1】子供の学びを支える授業づくりの推進
 ◆「子供の学びの姿」を想定した授業づくり ◆問いをもち、問いを更新する単元計画 ◆一人一台端末を使った協働的な学び ◆「生きて働く知識・理解」を身に付けさせる指導計画 ◆個々の学び方や習熟度に応じた指導の工夫 ◆基礎的・基本的な学習内容の確実な定着

【柱2】地域を生かした学びの充実
 ◆地域の人材、施設等を生かした学習の充実 ◆各教科、総合的な学習の時間、特別活動、外国語活動における地域と連携した学び、活動の計画の構築 ◆本校の特色ある取組の発展 ◆PTA、おやじの会、地域と連携した様々な活動の推進

【柱3】自己や集団の生活をよりよくしようとする特別活動の充実
 ◆学級活動や学校行事などにおいて、自主的・実践的な集団活動の充実 ◆多様な他者とかかわり、集団や社会、人間関係をよりよく築くことができる力の育成 ◆よりよい学校生活の実現に向けて合意形成や自己決定できる力の育成

【柱4】多様な個への支援体制の確立
 ◆いじめ、不登校の未然防止、早期発見・解決のための組織の充実 ◆子供理解を深め、特別に支援が必要な子供への気付きを共有と支援体制の速やかな構築 ◆なりひライオンルーム、教育支援センター等の利活用の促進 ◆専門家、外部機関等との一層の連携

【柱5】規範意識の向上と安心・安全の見える化
 ◆心身の安定と居場所づくりの充実 ◆「業平小のきまり」の徹底と気持ちよい挨拶の推進 ◆危険予測・危機回避能力を養う安全指導・避難訓練の実施 ◆感染症等の対策、清潔で安全な校内環境 ◆けがの未然防止、速やかな対応を図る見守りの徹底 ◆点検と速やかな補修

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	自ら問いをもち、「本質的な問い」を主体的に探究し、自らの学びを調整し、構築できる自律した学習者を育成する。	「子供の学びの姿」を想定した授業づくりを国語、および「算数」を中心に行い、区教育委員会「特色ある学校づくり推進校」発表会で区全体に伝達する。	4 研究授業4回以上	3	4 児童アンケート「考えをもち、広げる」10%以上向上	2	6年生は年度当初は59.1%だったが、2回目のアンケートでは、62.2%と微増4、5年は、6%程度の微減。年間を通して「考えを伝える」授業の充実が必要。	来年度は、授業の柱に「学ぶ必然性」、「自己決定」、「自己修正」を設定し、児童が「学びたい」という意欲をもてる授業の充実を目指す。	B	B	考える力、自分の言葉で伝える力を伸ばしていただきたい。「学ぶ必然性」を必要。（「なぜ？」ということをつからせる。）
	3 研究授業3回	3 8%以上向上									
	2 研究授業3回を下回った場合は、評価「1」	2 おおむね変化なし									
1	1 肯定的回答が低下										
各教科指導等	基礎的な学習内容の確実な定着を図る。	学力D層のうち、上位層、下位層を詳細に分析し、学習内容の定着状況に合わせて、タブレット端末やアプリを活用した反復学習を行う。	4 毎時間実施	3	4 上学年算数D・E層15%以下	2	6年生は、学力D層のうち、上位層を除くと15～6%程度となる。他学年も20%程度となっており、昨年度とおおむね変化がない。	低学年中心の放課後学習を後期からは高学年児童を対象に放課後補習教室を実施した。来年度は、今年度の学習状況を考慮して、年度の早い段階から補習教室を実施する。	B	B	補習教室の早めの導入はよい。
	3 概ね毎時間実施	3 17%									
	2 単元内で複数回実施	2 変化なし									
	1 単元末のみを中心に実施	1 増加									
各教科指導等	地域素材や地域人材を活用した各教科、総合的な学習の時間の一層の充実をめざし、地域への愛着を育むことができる教育活動を推進する。	町探検、町や学校の様子、墨田区の産業や文化、歴史といった観点で単元開発を行い、人とかかわりながら自らの問いを更新できる「価値ある学び」を創る。	4 「地域素材を生かした授業を推進した」100%	4	4 児童アンケート地域とのかかわり肯定的評価80%以上	1	4年:47.5%、5年:63.3%、6年:63.4%。目標には至らなかったが、いずれの学年も15%以上上昇している。	来年度は、地域を生かした学習を保護者や地域に発表会をしたり、ホームページや各種によりで紹介したりしながら、子供たちの学ぶ意義や成果を評価し、地域参画への意識を高める。	B	B	各学年、校外学習および人との関わる活動を積極的に行っていると思う。年度初めと比べて上昇したのはよい。町会としても協力できるとよいと思う。
	3 90%	3 75%									
	2 80%	2 65%									
	1 80%未満	1 64%以下									

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
生活指導等	多様な個の事情や背景に寄り添い相談体制の一層の充実をめざし、実態の早期把握・支援体制の確立を目指す。	なりひライオンルームの整備と支援体制の構築、学年主任→特別支援コーディネーター→校内委員会という相談体制を確立して、個の支援の充実を図る。	4	教員アンケート「見守り体制の効果」90%以上	4	4	高学年児童アンケート「学校が楽しい」90%	4	教員アンケート96%、高学年アンケート約90%。おおむね目標達成できている。自己肯定感も92～96%と高い。一方で、どのクラスにも1～2名程度自己肯定感が低い児童がいる。	改めて特別支援教育に関する理解を深め、体制強化を図る。特別支援教室における指導が必要な児童が増加しているので、教室の拡充を計画していく。	B	B	きめの細かい特別支援は必要。
		3	85%以上肯定	3		85%							
		2	80%以上肯定	2		昨年度と変化なし(84.3%)							
	1	80%未満	1	減少									
	学校行事や学級活動において自主的、自律的な活動を促進し、集団の中での自己有用感や自己肯定感を高める。	学校行事等のスローガンや取組内容等を児童自らが考え、他者と協議し、よりよい案を作ったり、折り合いを付けたりする力を育て、児童一人一人の学校生活の主体者としての意識の向上を図る。	4	すべての学校行事の自主的運営の推進	4	4	児童アンケート自己肯定感の増加	3	自己肯定感は、前期と比べて同程度か3%程度上昇した学年もある。6年生の運動会の種目、来年度のクラブ活動を児童の発案で作るなど新たな試みをしている。	音楽会では、保護者の方から児童の良い姿を感想カードに書いていただき、児童がうれしそうに見ていた。来年度も行事等での子供のよさを保護者が評価する機会を作る。	B	B	
	3	学年、学級での自主的な取り組みの推進	3	大きな変化なし									
	2	学校、学年、学級での自主的な取り組みが不十分の場合は、評価「1」	2	減少の場合は、評価「1」									
	1		1										
	「業平小ルール」の徹底を図り、全教職員でブレのない一貫した指導をめざす。	あいさつの励行、休み時間の見守り、「業平小ルール」の更新を行いながら、児童の実感と教師の評価との差異をなくす。	4	教員アンケート「業平ルールの徹底を図る」100%	3	4	児童アンケート「きまりを守る」90%以上	4	教員96%、児童90%、保護者93%でおおむね3者の見解が一致している。しかし、保護者アンケートでは「分からない」5%となっており、学校の様子を情報発信する機会が必要である。	次年度は学校だより、学年だより、ホームページ等で子供たちの学校生活の様子を積極的に発信し、保護者の理解を深め、SNSルールの徹底など協力を得よう努める。	B	B	自宅近くであいさつの返事が気持ちよく返ってくる。情報発信は必要。
	3	95%	3	85%以上									
	2	90%	2	85%未満は、評価「1」									
	1	90%未満	1										
学校の管理運営	「安心・安全の見える化」を図り、教職員、児童ともに危険予測・危機回避能力の向上を目指す。	遊び方のルールを徹底させるとともに「学校安全」を中軸にした安全指導を充実させる。	4	教員アンケート「安全指導の徹底」100%	3	4	保健室「けが」来室状況昨年度比25%削減	2	4月から2月3日現在の外科による保健室来室延べ数は約1400件で昨年度と同様である。児童アンケートでは87%が「気を付けている」と回答しているが、けがの状況は変化していない。	今年度の「業平小ルール」には記載がなかった休み時間の遊び方や遊ぶ場所の割り当てを見直し、「業平小ルール」を改訂し、徹底を図る。	B	B	1400件は多い。活発さは必要だが、けがのないよう配慮も必要。けがをした子供に、「なぜけがをしたか」、「しないための改善」を考えさせる。痛い思いは不要。
			3	95%以上		3	20%						
			2	90%以上		2	大きな変化なし						
			1	90%未満		1	増加						
		安全点検の徹底を図り、児童が安心して学校生活を送ることができる環境を整備・構築する。	4	月1回を超える点検、即時修繕	3	4	保護者アンケート「事故防止、安全指導」90%以上	4	保護者アンケート93%だが、「とても思う」と回答したのは、37%であった。また、これまでの不審者対策の対策を見直し、一層重点的に取り組む必要がある。	不審者対策については、教師用の行動マニュアルを見直し、第一報は教師向け、第二報は児童向け、警察との速やかな連携、教師がいち早く対応できる体制の計画と訓練を実施する。	B	B	地域の見守りも必要だと思う。
	3		月1回の確実な安全点検と修繕の実施	3		86%以上(昨年度)							
	2		上記の取組目標が達成できなかった場合は、評価「1」	2		昨年度から微減							
	1			減少									
家庭・地域連携	学校、PTA・保護者、地域が一体となって子供を見守り、育む連携を一層強化する。	PTA主催によるおまつりや防災教室、体力作り等の取り組みについて、学校教職員も協働して、取り組みの充実を図る。	4	教員がPTA、地域行事に積極的に参加	3	4	保護者アンケート「行事で生き生き」97%以上	4	保護者アンケート97%。なりっこ祭り、PTAビーチボール大会、漢字検定など参加できる教員を募り、PTA行事への参加を促すことができた。	引き続き、PTA行事など教員が参加しやすい方法を検討しながら連携を図っていく。特に開校110周年に向けて、来年度後期より周年準備委員会を立ち上げて、PTAとの協働体制を強化する。	B	B	堅苦しいルールの中にも「うるおい」のある施策が必要。
			3	教員がPTA、地域行事に参加		3	92%以上(昨年度92%)						
			2	十分な参加なし 評価「1」		2	「もう少し」回答4%未満(昨年度6%)						
			1			昨年度評価を下回る							

○令和7年度 学校経営報告のまとめ(総括)

自己評価、改善策ともに「おおむね妥当」という評価を得た。今年度の重点として「子供の学び姿を想定した授業づくり」、「地域のよさを生かした学び」、「特別活動の充実」についても、学校運営協議会の皆様にもご理解、ご協力をいただきながら、次年度に向けてさらに充実させる。特に次年度は、学校教育の様子をホームページや各種たより、授業公開、学年独自の授業参観など様々な機会を設定して情報発信をしていく。さらには、学校行事について児童向け保護者感想を保護者にも還元し、児童の活躍や成長を保護者と学校とが共有できる取り組みを推進し、子供の真ん中において、学校、保護者、地域が子供たちを見守り、育み、支える仕組みづくりを学校が率先して行い、「地域の中にある学校」としての責務を全うできるよう、学校経営の充実、改善、実行に全力で努める。